

## Special Exhibition Gallery [企画展示室]



モーリス・ユトリロ (可愛い聖母拜受者)  
トルシューアン・ワロウの教会(エヌ県)  
1912年頃 八木コレクション蔵 ©Helene Bruneau, 2017

4月8日(土) ▶ 7月2日(日)

### ユトリロ回顧展

モーリス・ユトリロは、パリの街角を描いた画家です。母は画家シュザンヌ・ヴァラドンで、彼女がモデルをしていた頃に生まれました。アルコール依存症となり、その治療のため医師の勧めで母が絵を描かせると、すばらしい才能を発揮し、画家の道に進みました。国内外の美術館や個人コレクターから、代表的作品約80点を一堂に集め紹介する本展は、姫路で初めてのユトリロ展です。

- 休館日：月曜日 ただし5/1(月)は開館
- 料金：一般/1200(900)円 大高/600(400)円 中小/200(100)円
- ※( )内は前売・20人以上の団体料金



杉浦さやか(あかきん)表紙原画 2012年  
©SAYAKA SUGIURA 2009



井上ミノル(Letters) 2012年

7月15日(土) ▶ 9月10日(日)

### 杉浦さやか・井上ミノル展

イラストレーターと考える 暮らしのためのし

イラストレーター・エッセイストとして活躍するふたりの著作から、原画や小さなオブジェ、そして生活のアイテムを紹介。日々の暮らしの中に意外なおもしろさを見つけたり、愛着を感じたりすることができれば、幸福度は上がることでしょ。暮らしを楽しむためのヒント満載の展覧会です。杉浦さやか、井上ミノルプロデュースの「私らしい心地よい空間」も設置します。

- 休館日：月曜日、7/18(火) ただし7/17(月)は開館
- 料金：一般/600(400)円 大高/400(300)円 中小/100(50)円
- ※( )内は前売・20人以上の団体料金

9月23日(土) ▶ 11月5日(日)

### リアル(写真)のゆくえ

高橋由一、岸田劉生、そして現代につながるもの



高橋由一(鮭)19世紀後半(明治前期)  
山形美術館寄託

「鮭」の絵で知られる日本洋画の先覚者、高橋由一が衝撃を受けたりアリスム、西洋からもたらされた迫真の写実表現は、大正期の岸田劉生などを経て、現代の作家にまで引き継がれています。本展は、移入されてから150年を経た写実表現の展開や、日本独自の写実について検証します。明治から現代までの写実絵画を展覧することで、リアル(写真)のゆくえを追うものです。

- 休館日：月曜日、10/10(火) ただし10/9(月)は開館
- 料金：一般/1000(800)円 大高/600(400)円 中小/200(100)円
- ※( )内は前売・20人以上の団体料金



(LIFE) 2002年



(LIFE) 2015年

11月12日(日) ▶ 12月24日(日)

### 永井一正ポスター展

グラフィックデザイナー永井一正は言います。「宇宙の中から奇跡的に地球ができ、微生物が生まれ、そして生き物たちのひとつとして人間が誕生した。そこには何か宇宙の法則、摂理があり、それを『かたち』にしておくこと—それがデザイナーの仕事である」と。1929年大阪に生まれた永井は、16歳の時、戦火を逃れて姫路に疎開し、戦中・戦後、旧制姫路中学校・姫路西高等学校に学びました。今、姫路から、永井一正の「想い」を世界に向けて発信します。

- 休館日：月曜日
- 料金：一般/600(400)円 大高/400(300)円 中小/200(100)円
- ※( )内は前売・20人以上の団体料金



(皇帝トラスの審判) 16~17世紀頃 女子美術大学美術館蔵

2月10日(土) ▶ 3月25日(日)

### イメージを織る

様々な色を用いた羊毛や絹糸などの経糸を緯糸にかがり、絵や文様が織り込まれていくタピストリー。その起源は古く、綴織の技法という点ではグレコ・ローマ時代のエジプト、コプト美術にまでさかのぼることができます。本展覧会は、実業家兼コレクターとして活躍した松方幸次郎氏が収集した女子美術大学美術館の染織コレクション(旧カネボウコレクション)のタピストリー5点を中心に、その魅力に迫ります。

- 休館日：月曜日、2/13(火) ただし2/12(月)は開館
- 料金：一般/900(700)円 大高/600(400)円 中小/200(100)円
- ※( )内は前売・20人以上の団体料金

ユトリロ回顧展

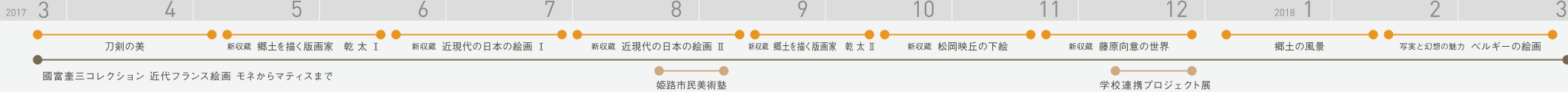
杉浦さやか・井上ミノル展  
イラストレーターと考える 暮らしのためのし

リアル(写真)のゆくえ  
高橋由一、岸田劉生、そして現代につながるもの

永井一正ポスター展

第72回  
姫路市美術展

イメージを織る



## Collection Gallery [コレクションギャラリー] ●料金：無料

### 刀剣の美

3月30日(土)・5月7日(日)

近年、日本刀の魅力が再認識されています。姫路市立美術館でも、姫路にゆかりのあるものを中心に刀剣を所蔵しています。その中から近年寄贈された信国の短刀をはじめ、代表的な刀剣をご紹介します。

### 新収蔵 郷土を描く版画家 乾太 I

5月9日(土)・6月18日(日)

乾太はたつ市の市在住の木版画家です。郷土の風景、祭りの様子など、どこか懐かしい情景を、力強い木版で表現しています。昨年度の新収蔵作品の中からこの版画家の作品を、2回に分けてご紹介します。

### 新収蔵 近現代の日本の絵画 I

6月20日(土)・7月30日(日)

昨年度、当館では数多くの作品が収集されました。その中から近現代の日本の絵画を2回に分けて紹介いたします。Iでは黒田清輝の《読書》のモデルと思われる女性を描いた油彩や、福田屋仙の大幅の挿軸などを展示いたします。

### 新収蔵 近現代の日本の絵画 II

8月1日(土)・9月10日(日)

新収蔵作品の中から非具象的な作品を中心にご紹介します。前衛的なグループ、パンリアルや具体美術協会にも所属した田中竜児、版画において立体性を追求した井田照一の作品などを展示いたします。

### 新収蔵 郷土を描く版画家 乾太 II

9月12日(土)・10月15日(日)

昨年度の新収蔵作品から、乾太の作品を紹介する企画の2回目には、《松原八幡御祭礼》、西の糠り場(播磨国一の宮御祭礼)など秋祭りの作品を中心に紹介します。

### 新収蔵 松岡映丘の下絵

10月17日(土)・11月19日(日)

福岡町出身の松岡映丘は、新興大和絵の旗手として、日本の伝統的な絵画に新しい感覚をもたらしました。近年寄贈された映丘の下絵は、《伊香保の沼》(望君)など代表的な作品の構想を描いたもので、完成に至るプロセスのわかるものです。その中から代表的なものを紹介します。

### 新収蔵 藤原向意の世界

11月21日(土)・12月24日(日)

加古川在住の作家藤原向意は、拾ってきた木の枝や、空き缶、ペットボトルなどの廃材などを組み合わせ、生命感あふれる不思議な造形物を制作しています。その中から昨年度収蔵されたアップサンブラージュ作品や初期の版画などを展示します。

### 郷土の風景

平成30年 1月6日(土)・2月12日(日)

郷土出身の洋画家榎一郎の作品を中心に、郷土を描いた美術作品を展示いたします。

### 写実と幻想の魅力 ベルギーの絵画

2月14日(土)・3月25日(日)

当館では、ヨーロッパに唯一姉妹都市提携がある国として、ベルギーの作品を収集しています。象徴主義やシュルレアリスムなど、フランドル美術の写実と幻想の世界を引き継いだベルギーの美術作品を紹介します。

展覧会は内容等を変更場合がございます。最新の情報はウェブをご覧ください。